

レクリエーション よこはま



第16号

平成7年9月1日発行

社団法人 横浜市レクリエーション協会

〒231 横浜市中区寿町2-5-1

☎ 045 (671) 5 0 4 9

編集 広報委員会

「レジャーとレクリエーションの関係を知る」

事業第1委員長 鈴木秀雄

(関東学院大学法学部教授)

1) “器(水槽)論”と“調理(金魚)論”

レクリエーションは、レジャーという“器(うつわ)”の中に存在するものと考えるとき、器の中にある“料理”そのものがレクリエーションである。色々な料理方法や盛り付け、そして味のミックス、様々な隠し味など、多種多様である。器(レジャー)にしても、幅の広いものから深いもの、沢山の量を入れることができるもの、色、柄、形、創られた過程もそれぞれの趣を有している。このようにレジャーとレクリエーションとの関係は、無限の広がりを持っていることになる。

レジャーの“器論”とレクリエーションの“料理論”を、今度は、レジャーを水槽に見立て、中を泳ぐ金魚をレクリエーションと考えるなら、金魚の泳ぐ位置は水槽の中では一次元の世界で、レクリエーションの技術としての縦軸、レクリエーションの楽しさとしての状態である横軸、そして、人間の活動領域(頭、心、体)としての高さ軸、それらの交わる点に金魚(レクリエーション)が泳いで(存在して)いることになる。そこからレジャーの中でどのようにレクリエーションがなされているかを理解するためのレジャーの水槽論が生まれ、レクリエーションの金魚論がみえ

てくる。この金魚が悠然と水槽の中を泳ぐとしても、決して一点に常に留まっていることはない。この水槽(レジャー)からはみ出した金魚(レクリエーション)は、余暇の概念からはずれ、レクリエーションとしての意味を持たなくなってくる。それは、金魚の死を意味する。どのような状況であろうと、レジャー(水槽)の中にレクリエーション(金魚)は位置づけられなければならないのである。条件が悪く、水が濁ろうが、酸素の少ない水であろうが、そこで生活しなければならないのが、金魚の宿命である。換言すれば、自由に、そして、必要に応じて泳ぎ回ることができる、よりよい金魚の住環境を持つ水槽が必要となる。いわゆる水槽管理(余暇管理能力)が問われてくる。

金魚の存在(レクリエーションそのもの)は認知したとしても、金魚の場所・泳ぎ方(レクリエーションの形態)を特定・固定したり、次の行動を確実に予測することが難しいところに、“ファジー”たるレクリエーションのゆえんがある。

しかし、それでは、そのまま、レクリエーションを単にファジーな概念に押し込めていてよいかと言えばそうはいかないであろう。

なぜなら、個人が自身の楽しみを求める活動として行うには、さして理論的な根拠や、合理的な行動を求めず、むしろ自身の感覚的な部分で自身に好ましいとする範囲において行動を起こし活動するからである。換言すれば、レクリエーションを指導するためには、この個人的な感覚的ともいえる嗜好にまで配慮を示し、レクリエーション活動を取り上げ、提供していくというステップが必要視される。それだからこそ、他者がするレクリエーションとは、どのような動機で、どのような価値判断をもって、そのレクリエーションが行われているかを感覚的な理解からではなく、理論的な理解に基づいて判断する必要がある。この視点からこそ指導者はレクリエーションの理論的背景を十分理解したうえで感覚的でない実際の活動指導が求められる。

2) レジャーの語源とその意味

レジャーの語源は、ラテン語の *Lecce* を経て、古典フランス語の *Leisir* (*Loisir*) から由来しているといわれる。また、ギリシャ語である *スコレ* (*Schole*) と関連を持ち、この *スコレ* は英語における学校 (*School*) や学者 (*Scholar*) に通ずるものであり、レジャーと教育とは密接に結び付いている。*スコレ* はレジャーという意味を持つだけでなく、学問的討論の場をさすものである。その場は小さな森で、*Lyceum* として知られている。この *Lyceum* からフランス語の学校という意味である *Lycee* が生まれた。英語の *Leisure* は、フランス語である「許される」あるいは「自由である」という意味の *Licere* に直接的な関連を持っている....古代ギリシャにおいて、上級階級には、労働という拘束はなく、自由に知的な、文化的な、そして芸術的な形式で活動に接することができたのである。このラテン語 *Licere* からフランス語の *Loisir* は由来し、英語では *Leisure* と同意味であり、社会からの拘束、奉仕 (仕事) か

らの自由、すなわち *Leisure* という英語にあたるもので、これらの色々な言語は、すべて意志の自由であったり拘束的要素のないこと、そして自由な選択を意味している。

レジャーの語源を総合してみると、古代ギリシャにおいて、仕事 (労働) を持たない自由で許されている人 (いわゆるレジャークラスである有産階級) が教育的・建設的・学問的意味をもった活動をレジャーとして享受していたわけで、労働との対比 (対蹠要素) として存在していたものではない。それが時代の変遷と共に、仕事を持つ労働者階級にも自由と自由時間が生まれ、それがレジャーとして用いられるようになった時、現代社会のような労働との対比としてマスレジャー (大衆余暇) が理解されるようになってきたのである。この意味からすれば、古くレジャーが自由で許されている人たちによって享受されていたものは、特に学問的であったり建設的であったりしたのだが、許された人の枠が広がり、大衆化してきて、仕事の後でなされるレジャーは、むしろ建設的、学問的な意味合いより、労働からの解放、気晴らし、娯楽としての活動にその中心がおかれ、単なる遊び (*Mere Play*) へと変化してきた。

しかし、近年の余暇時間の急増により、仕事をもつ者にとっても、余暇 (*Leisure*) は単なる、遊びや、休養、気晴らしにとどまらず、“単なる遊びでもない、仕事もない、いわゆる創造的活動”としても余暇が理解され始めてきた。本来の余暇の機能には、3つの機能があり、①休養・休息、②気晴らし・娯楽、③自己啓発・自己実現、の機能に分類することができる。余暇社会化した現代社会の中で、これらの機能を意識的に活用し、他者からの圧力や強制からの選択ではなく、自身の選択として、これらの3つの機能の間を振り子が左右に動くように、時には休養であったり、娯楽や気晴らしであったり、自己を高めようとする自己啓発活動であったりすることが必

要なのである。そこから創造的余暇といわれる活動が生き生きとして活用されることになる。単なる遊びから創造的活動に至る一連の広がりの中で幅広い活動が求められているのである。

レジャーの中でなされるレクリエーションの理解は、表面上に現れている活動形態と、内面的な心の有様と動きとを複合的に捉えて判断しなければならない。表面上の活動形態のみから、その活動をレクリエーション種目として決めつけてはいけない。Recreationの -ation は接尾辞で、動詞に付けて、本来“～である状態”～である状況を意味するのだから、レクリエーションは活動種目でなく、休養、娯楽、気晴らし、楽しさやおもしろさ、自己啓発の状況や状態を示すものだと理解すべきなのである。それらの状況や状態を通して生活の中に“真のゆとり”を求めるものであることは言うまでもない。

余暇社会の到来にあって、その余暇（レジャー）の価値を認識せず、ますます増大するレジャーを、“宝の持ち腐れや猫に小判的な存在”にするのか、はたまた、人生にとって大切な“至上の宝”として活用していくのかは、いつになく、このレジャーそのものの理解とレクリエーションそのものの認識をいかに“正しく生活の中に反映していくか”、レジャーとレクリエーションの関係をどう“正しく理解し行動として享受していくか”というあなた自身の問題に尽きるのである。

レクリエーション指導者といわれる者、またレクリエーション指導者であると自認する者がまず、自身のレジャー・レクリエーションに対する再認識をするときがとうにきているということである。レジャー・レクリエーションそのものの十分な理解や認識をさておいて、その目先の技術論に一喜一憂している指導者は全体を俯瞰せず、その場のおもしろさを求めているだけに過ぎないことを認識すべきである。(社)横浜市レクリエーション協

会が目指す指導者養成の視点は、ここにエネルギーが注がれるべきで、そうでなければ市民不在の指導者養成になりかねず、個人が求める資格の獲得に貢献しているだけに過ぎず、運動体（Movement）の担い手の養成にはなっていないことにもなる。現状に疑問を持つことから進歩があることを忘れてはいけなく、変わることはエネルギーと努力を必要とすることは言うまでもない。指導者養成は市民へのサービスと共に協会活動推進のための支援者養成への道なのである。指導者そして筆者も含めて、ここで改めてレジャー・レクリエーションの正しい関係を再考し、次への方向性も摸索したい…。

'95レクワーカーネットワーク 活動の展開について

指導第2委員長 緒方浩臣

レクワーカーネットワークが発足して1年半が過ぎました。レクワーカーの自主的な活動と会員相互の連携を目的としてつくられたレクワーカーネットワークですが、活動はすすんでいるでしょうか。

指導第2委員会では、協会に依頼された派遣要請をネットワークに流してきました。横浜シティウォーク、協会スキー事業、鶴見区自然教室、六角橋中学校区レク講師依頼等にネットワークが関わることができました。今後も、多くの要請に答えられるよう、ネットワークの体制づくりをすすめていきたいと考えています。

また、指導第2委員会では、レクワーカーとしての活動を支援するため、今後の活動について以下のように考えています。

- ・レクワーカーの資質向上のため学習会（講習会）を行う。
- ・会員相互の連携をはかるための会を開く。
- ・シティウォーク等へネットワークとして参加していく。

今後、レクワーカーネットワークが積極的な

活動を行っていけるよう支援していきたいと考えています。多くの方のネットワークへの参加を期待しています。

民踊愛好者お誘い

横浜市民踊協会

日々の余暇を活かしながら心と体の健康づくりと、人との和（輪）を大切に、老若男女を問わず誰もが参加出来、踊りを楽しみながら民踊の伝承と普及につとめています。1年の事業実施内容をのせて見ましょう。

期日	行事名	会場
1月26日	新年踊り初め大会	野毛地区センター
2月5日	梅まつり	横浜三溪園にて
6・7月	盆踊り巡回指導	各依頼会場
9月10日	いきいき体操フェア	藤沢市秋葉台文化体育館
10月15日	秋のおどり	関内ホール
12月	クリスマス市民踊のつどい 神奈川唄まつり民舞大会	文化体育館

毎月第3木曜日 一般市民踊講習会

PM1:00～ 野毛地区センター

<問い合わせ先は>

会長 近藤貞子 ☎ 045 (641) 1749

横浜市家庭婦人卓球連盟

理事 遠藤紀美枝

家庭婦人卓球連盟は、平成4年に発足20周年の記念大会を開催し、年月の速さと、急速な社会の変化にあらためて目を見張る思いがしたものでしたが、もうあれから3年…今ではいわゆる主婦業と呼ばれる人達が自分の趣味を生かしながら上手に生活を営む知恵を身につけ、生き生きとした人生を送ることが当たり前のようになっています。よく、婦人卓球（スポーツ）と、家庭婦人卓球（スポーツ）とはどう違うのですか？という質問を受けることがあります。今でこそ独身女性も既婚女性も区別なく、スポーツをしたいと思えば何時でも出来得る環境が整っていますが、私達、卓球連盟が活動のスタートを

きった時点では、まだまだ女性は結婚したら家を守り、子供を育て、働く夫を支え、といったような風習が残っている時代でもありました。そのような中で、ようやく女性が自我に目覚め、家庭の外にも目を向け始め、先ず健康でありたい、それにはスポーツが必要であると考えた訳ですが、勿論現在のように各区に地区センターがあり、スポーツ会館がありといったような恵まれた環境とはほど遠く、横浜市の周辺ではやっと平沼スポーツ会館が完成、一般に公開されはじめ、隣の県立スポーツ会館では第1期の卓球教室、体操教室の受講性の募集が始まったところで、仮に任意のスポーツサークルが出来たとしても、練習場の確保など困難をきわめておりました。それで先程の質問に戻りますが、家庭に一旦入ってしまった女性と、社会で活躍している女性との区別をつける意味で頭に家庭婦人をつけた訳ですが、現代ではもう区別する意味がなくなっているようです。スポーツの持つ意義と必要性は現代社会では欠くことが出来ないということを一早く実践しているのは今では家庭に入った主婦達だと言っても過言ではないと思います。テレビではトンネルズがピンポンをしてみたり、愛ちゃんが茶の間を湧かせ、今や完全な愛ちゃんブームです。その影響か、あるいは世の中が不景気のせい、お金のあまり掛からない卓球に人気が集まってきたということ。確かに卓球というスポーツは施設さえあれば、誰でも手軽に楽しめ、それでいてかなりハードなスポーツでもあり、といったところが魅力といえば魅力ですが…。かつては大義名分のごとく生涯スポーツを叫び、卓球人口を増やそうと躍起になった時代もありましたが、昨今ではそんな必要もないほど自然と輪も広がり、毎月のように必ず何処かで大会があり、参加者の行動半径も大きく広がって全国的な展開で活躍の場が出来ております。この9月には横浜市の一大イベントホールでもある横浜アリーナで家庭婦人卓球大会の開催も予定されており、年々、参加者数が拡大の盛況です。

協会主催事業のお知らせ

1. トリップイン奥会津ウォーク

日 時／10月20日(金)夜～22日(日)夜
申込み／9月12日より受付開始

2. ネイチャーゲーム

日 時／11月5日(日)
申込み／10月11日より受付開始

3. バウンズテニス

日 時／12月17日
申込み／11月13日より受付開始

4. 市民スキー日程

- ・お正月親子スキー戸狩 1月3日(夜)～7日(朝)
 - ・ジュニアスキー戸狩 1月3日(夜)～7日(朝)
 - ・春休み親子スキー蔵王 3月28日(夜)～4月1日(朝)
 - ・春休み親子スキー野沢 3月28日(夜)～4月1日(朝)
- 申込み 11月15日と12月13日に受付開始

よこはま子どもマリンスクール 「南伊豆自然教室」でたくましく

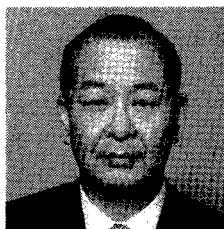


8月15日から19日までの5日間、静岡県南伊豆町の「横浜市少年自然の家、南伊豆臨海学園」にて、小4年～6年の男女170名参加で行われた。

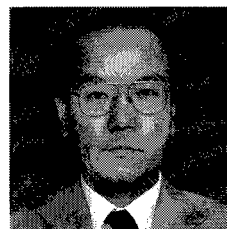
場所は、南伊豆妻良湾の子浦海水浴場の海を舞台に、カッター訓練、磯の生物観賞会、遠泳、組立て式イカダに乗って、湾内の冒険など内容は盛り沢山。たくましく日焼けして。

提供／神奈川新聞社 写真部

事務局よりのお知らせ



相川 健



前田 進

○去る3月31日付で、事務局長の青野利夫さんが退職され、磯子区にある社会教育コーナー所長に就任されました。

また、6月7日付横浜市の異動により事務局次長の杉山純子さんが戸塚区役所戸籍課戸籍係長に転出されました。ご苦労様でした。

これに伴い同日付で事務局長に相川健が、事務局次長に前田進が就任いたしました。

どうぞよろしくお願いします。

○事務局のレイアウトを変更し、衣替えをしました。是非お立ち寄りください。

編 集 後 記

平成7年度「16号」の広報発刊に、ご協力ありがとうございました。掲載されました内容のとおり、刊頭には、レク協の運動推進をはじめ、年間に亘る実践活動を支える指導者自身の相互に問題意識を高め合い乍ら、確かなステップを一步一步市民の日常生活で、期待されるサービスが求められている「豊かなライフスタイルとワークを求める展開を根ざす!!」を合い言葉に、参加意欲を創造して実践する大きな前進へと一歩を踏み出しました。その成果は次号に掲載していきたいと思います。協力いただいた原稿提出の取りまとめや、校正作業の遅れから、発刊月日になりました事をお詫び申し上げます。

広報委員会

レクリエーション よこはま



第17号

平成8年3月31日発行

社団法人 横浜市レクリエーション協会

〒231 横浜市中区寿町2-5-1

☎ 045 (671) 5049

編集 広報委員会

「レジャー・レクリエーションの関係を知る(その2)」

事業第1委員長 鈴木秀雄

関東学院大学法学部教授
日本レジャー・レクリエーション学会理事

[1] レジャーであるためには

レジャーとは、スコーレ（ギリシャ語）とリセーレ（ラテン語）の二語に語源がある（レクリエーションよこはま第16号参照）ことは知られている。これらは「自由で許されている身分や状態にあり建設的な活動をする」意味である。また人が楽しむ時であり、楽しんでよい枠組みの中にあることでもある。しかし楽しむの時、その枠組みの中にいたとしても楽しみが向こうから必ずしもやってきてくれるものでもない。すなわち、「こころよさ」という個人の快迫及の状態と「こころよい」という快活動がされなければレジャーとしての存在を意味しない。自由時間が全て余暇であることを意味してはいない。快状態と快活動が必要であり、それらがレクリエーションとしてレジャーの中でなされ初めて真のレジャーの存在となる。余暇にあたるのに何もせず、意識もしない時間や状態で、あたかも植物人間的状態ようになっていたのではそれをレジャーとは決して言わない。

[2] レクリエーションとは

過般の平成7年度(社)横浜市レクリエーション協会主催事業（平成8年3月1日開催の研

修会：レクリエーション再考～そのファジー（曖昧）なるものへの挑戦～）の中でも詳しく述べたように、レクリエーションとは、「単なる遊び（Mere play）から創造的活動（Creative activity）までを含む一連の広がり（spectrum & span）の中にあって①余暇（レジャー）になされ、②自由に選択され、③楽しみを主たる目的としてなされる活動（Activity）で、歓娛（よろこび楽しむこと）の状態（State of being）をいう。」のであり、レジャーの中にレクリエーションが存在していることが明確にわかる。

[3] レジャーの「構造(つくり)」と

「機能(はたらき)」

レジャーの構造(つくり)は、生活機能からの離脱、社会機能からの離脱、そして歓娛の獲得という三つの部品(条件)からなり、レジャーの機能(はたらき)は、休息・休養；娯楽・気晴らし；自己啓発・自己実現、の三つの状態である。生活必需から離れ、仕事や社会的役割から開放され、初めてレジャーたる歓娛の迫及や獲得がなされる。そしてその時どきの個人的な条件や状態により「つくり」の三条件、そして「はたらき」の三状態はレ

クリエーションの一連の幅広さとして選択された結果現われてくる。単なる遊びも家族での外食もごろ寝やカラオケそして冬山登山、また難しい読書や自身を高める学習や訓練も生活機能からの離脱、社会機能からの離脱、そして歓娛の獲得の条件のもと、休息・休養；娯楽・気晴らし；自己啓発・自己実現、の三つの状態がその割合・強調される度合いや複合的な組み合わせによりレクリエーションの活動 (Doing recreation activity) として、あるいはレクリエーションの状態 (Being the state of recreation) として、時には自然発生的に、時には意図的・計画的に現われたり、なされたりする。

[4] 外延と内包の曖昧さ

外延 (それぞれの概念が適用される事物の範囲) と内包 (一つ概念の中に含まれる全ての属性すなわち意味や性質) を考えれば、レジャーとレクリエーションにそれぞれ外延と内包が存在するのだが、そう考えずにそれよりも、レジャーの主たる外延としてのレクリエーションがあり、内包としてレクリエーションのあらゆる活動・状態があると考えることがよいであろう。例えば、芸術家という概念の外延は、詩人・小説家・音楽家・彫刻家・画家・俳優・演出家などであり、その中の例えば、俳優の内包は、演劇・映画等に出演することを職業とする人、役者である。レクリエーションの内包としてなされているさまざまな活動や状態にはそれぞれ名前がついていることから、レクリエーションと言わずにそのままの活動名や種目名、状態名で表現する。それは、レクリエーションの内包が狭く捉えられ例えば三種の神器といわれたダンス、ソング、ゲームなどに限定されてしまったりする。レクリエーションはレジャーの外延の単なる部分としての存在ではなく、レジャーの中で快追及の活動 (Activity) や歓娛 (喜び楽しむこと) の状態 (State of being) が

求められる全てのものなのだから、二重円に例えるならば外輪と内輪の関係となり、概念的にはレジャーはレクリエーションを含み、大きく広いものであるが、外輪と内輪に曖昧さは存在するもののその差は歴然としている。個人が有するレジャー (外輪) の枠組みの中で内輪としてのレクリエーションが享受されることになる。

例えば、スノースキーがレクリエーションであるか否かではなく、レジャーの外延としてのレクリエーションとして位置づけられ、その内包としての活動でなければ、レクリエーションにはならない。換言すれば、レジャーの枠組の中でその活動・状態が存在しなければレクリエーションの活動・状態としてなされていないのだからレクリエーションにはならない。意識・活動・状態が関係して、その行為をレクリエーションであるかないかということを明らかにしている。

[5] 余暇時間化のためのレクリエーションの意識化と活動の三次元的分析

自由裁量時間が増大する余暇社会にあつて、豊かなゆとりある生活をしていくうえで個人が自身の余暇をどうマネージするかは、重要な課題である。お金さえあれば、仕事してさえいれば豊かになれるという時代ではない。いかに余暇能力 (Leisurability) を高めていくかが現代社会の中で求められている。

日常生活の中に存在しているのに気付かずにいる活動や、潜在化してしまっている活動を意識化し、それをレクリエーションに創り変えて「昇華させる」工夫をしていくことである。例えば、家族での「夕食の一時」、これを意識的にレクリエーション化し楽しさや豊かさにゆとりを加えるにはどうしたらよいのだろうかと考えたりすることである。これは生活機能からの離脱を図ることになり、余暇時間化を可能にする。歓娛の状況を創り出す原点が生まれてくる。快追及のための努力

をしなければ、日常生活の中で楽しさや喜びは生まれてこない。この意識化こそレクリエーションの自然発生的な誕生を可能にする。

また、レクリエーションに関するかぎり、活動の分析とは、その活動の価値や意義を評価するためのものではなく、自身にとってよりよいレクリエーションはどうあるべきかを知るためのもので、余暇能力 (Leisurability) を高めていくために理解しておくべきである。活動の分析としては、レクリエーション活動の三次元的分析法 (詳細は拙著『レクリエーション指導法』誠信書房刊参照) でその時どきの活動を分析することができる。レクリエーション活動の三次元的分析法を簡単に説明すれば、水槽 (レジャー) の中の金魚 (レクリエーション) にあてはめることができる。ある活動を分析し、それが技術的にはどのようなものであるかを縦軸 [レクリエーション技術 (Recreation technique) 系] にとり、楽しさやおもしろさの度合いを横軸 [レクリエーション状態 (Being recreation) 系] にとり、また高さ軸には人間活動領域 (Humanistics activity domain) 系を組み合わせれば、それら三つの軸の交わる点に金魚は位置していることになる。その金魚の位置こそが分析できるレクリエーション活動の内容ということになる。高さ軸の人間活動領域 (Humanistics activity domain) 系は三本柱からなり①あたま (Cognitive domain) である知的活動領域②こころ (Affective domain) である情緒的活動領域③からだ (Psychomotor domain) である神経・筋的いわゆる身体的活動領域の組み合わせや強調されている領域により活動内容に変化があるということがいえる。縦軸の技術系を達成度、横軸の楽しさ喜びの状態系を歓娛度、高さ軸を、あたま、こころ、からだの柱がときに応じてそれぞれ④最大関与⑤中間的関与⑥副次的関与を示す領域関与度とすれば、三次元の達成度、歓娛度、領域関与度の総合判断とし

て、レクリエーションの満足度を尺度化して測定することも可能となる。レジャー・レクリエーションがファジー (曖昧) に捉えられるものであるからこそ、明確にする意識化が大切であり、明確化の過程を経ることにより余暇能力 (Leisurability) を高めていくことができる。

公益法人である本協会の事業展開においても既述の内容を理解したうえで十分な議論とそれに基づいた機構改革、組織化とそのネットワーク化、旧態依然のレクリエーション指導形態でもある“手段化したレクリエーション指導”の形態から脱却し、新たなレクリエーション運動を推進する幅広い担い手としての指導者養成を独自にはかり、市民への多様なプログラム提供 (Leisure Services and Studies) を多角的にしていくことが大切である。そのためにもレジャー・レクリエーションの本質と現実をしっかりと理解し、(社団法人) 横浜市レクリエーション協会がめざすべき、そしてこうあるべきという市民に見えるさわやかな“あるべき論”を掲げ、市民に対し地域性、文化性を充分意識した特色ある「横浜型レクリエーション」あるいは「レクリエーションよこはま型」を確立し、市民に対する余暇活動 (レクリエーション) についての十分な心豊かな情報発信基地としての情報提供機能や相談機能そして指導に関する人的援助 (指導者バンク) 機能なども兼ね備え、市民に求められ多くを期待される活力ある協会づくりをめざしていきたいものである。

【市民とともに】～“使命共同体”への道を拓く

第2次中長期計画と協会事業の展開について

総務財政委員長 深津 米男

平成6年度に発足した「中長期計画推進会議」は、「第2次中長期計画」の実施推進をねらって、平成7年度末の現在まで極めて精力的に活動し、約1年半の間に、延べ13回の会議開催とそれに伴う作業を行い、協会基本

方針（案）、事業方針（案）それに伴う機構改革（案）などをものにし、3月に本協会長に検討結果の「報告」を行いました。

報告した基本方針（案）では、「第2次中長期計画」で現在の社会の流れや横浜市の方向性（「2010プラン」）等を背景にして示された協会の“存在意義”そして“目的、本来果たすべき役割”等を具体的に検討して、横浜331万市民の余暇生活の活性化を促し、余暇活用のニーズに対応する公益的な「レクリエーション運動体」としての協会の姿を明確にしました。さらに事業方針（案）では、運動展開の目標を「横浜市におけるレクリエーション環境の改善と活動を通じた市民の喜びづくり」と設定、当面の事業テーマを示しながら、あわせて平成8年度事業方針（案）を提示しました。

その詳しい内容や項目は、平成8年度総会の議案として示され、それをもとに会員による活発な議論が起こることを期待しています。

さて、今回の「報告」には、事業を進めながら何をを目指すのか、地域に密着した活動展開を進めていくにはどうすればよいか等といった、従来曖昧であった部分についての具体的なしっかりとした方向性が示されていると自負しています。

個人的な印象をいわせていただければ今回の「報告」で、昭和62年の「第1次中長期計画検討委員会」の設置から既に8年、ようやく協会改革の体制が整ってきたという感じがします。

今回の検討は「“協会”とは何なのだ。何を、どうすべきなのか。」という実にシンプルな、そして重要な問いかけから始まりました。そして「今、何をなすか。今後どうやっていくのか。」というところまで続きました。その論議の基本には、“レクリエーションを運動としてとらえる”ことがありました。そして、運動を進めていく背景となる理論的な考えも求めました。ここの部分については、

会議のメンバーにお二人の学識豊かな方を得たことが大きな力になりました。特にレクリエーション活動や事業を「ねらいと目的の設定軸」でとらえ直す視点は、今まで漠然としていたものを整理するうえで有効でした。

そして、従来のイメージや理想とするレクリエーション協会の姿を基にした、いうなら《思いの世界での論議》から一步踏み出して、現実の協会の姿、おかれた位置、役割を強く意識した論議が行われました。

それは、「従来の日本協会と県協会、そして横浜市協会というラインの中で考えていて、市民のための横浜の“運動”は成立するのか。」という厳しい問いかけでしたし、「横浜を含む大都市におけるレクリエーション運動の進め方には、前例やモデルがないに等しく、また、どちらに進むという既に敷かれたレールがある訳ではない。おおげさにいえば私たちの営みそのものが、大きな試み、先例になっていくんだ。」というメンバーの共通の認識に支えられていると思います。

そして、レクリエーションの世界だけが、現代の社会の動きや変化と無関係には存在しているはずもないこと、331万人という、とてつもなく多くの老若男女の市民の顔を想像しながら私たちの運動を進めていくこと、また、世界にひとつしかない「横浜の協会」のこれからの姿を思い描きました。

今回の「報告」は近未来のものではありません。現在の協会を動かしながら、“従来の協会からの脱皮”を目指しています。ご承知の通り、協会は公益法人の中の「社団法人」です。「社団法人」はふたり以上の人が、共同の公益的な目的をもって設立した、法律上の権利や能力を認められている団体です。ここで注目して欲しいポイントは「ふたり以上の人」「共同の公益的な目的」というところです。

いままで述べてきた通り、今回の「報告」で「共同の公益的な目的」については明らか

になったわけです。残るのはその目的をもった「ふたり以上の人」＝社員（民法上の呼称。正会員のこと）の姿や意識さらに関わり方についてだと思えます。

ここからは私見になりますが、人によって構成される共同体にはいくつかのものがあるようです。私的利益を追求する企業などの「利益共同体」、公的な利益を共有する地域や自治体などの「運命共同体」といわれるものなどですが、私たちの協会はどんな「共同体」なのでしょうか。「社員」といっても私たち会員と協会の関係は、協会は企業ではありませんから、当然、雇用と被雇用の契約関係などありません。また、協会は法人として法律上の権利や能力を認められてはいますが、公的な利益を共有する団体ともいえません。

あえて私たちの協会を「共同体」として定義づければ「横浜市民の余暇能力の開発や余暇生活の向上を目指す」という同一の使命（ミッション）を共有する人々の自発的で水平的な集まり。そこでは働く（活動を進める）ものだけが「社員」になることができ、「社員」だけが働くことができる「使命共同体」だろうと思うのです。

レクリエーション協会の会員である、あるいは会員になるということは、だれかが「提供」や「用意」してくれたレクリエーションにかかわる活動や事業に“参加”するということの意味しているのではなく、自らが主体的にさまざまな立場や角度からレクリエーション運動に“参画”していくこと、働く（活動を進める）ことだと思えます。

私たち会員には、今、そんな会員イメージの認識変革が求められているのではないのでしょうか。そして、それを進めながら、さらに多くの「市民」が協会の会員として運動推進の列に加わってくれる、そんな「状況づくり」こそが協会の使命だと思えます。

もし、レクリエーション運動に主体的に“参画”するなんていわれても、専門的な指

導能力がないからと思う方がいらしたら、その方こそ、その意識からの脱出が必要なのではないかと思えます。

なぜなら、私たちは日常生活の中で「楽しさ」を求め「健康づくり」を願うさまざまな活動で、多くの「人との交わり」を深め、それぞれの「生きがい」の認め合いを、まず自分から率先して実践できる人こそ、また多くの市民とともに楽しく活動することを求める人こそ、他の人に働きかけられる人、運動の担い手と考えているからです。

平成8年度から毎年、協会の総力を挙げて地域団体起こしや活動開発をねらうイベント「レクリエーションよこはまフェスタ'96」を開催していきます。ここから「横浜のレク」市民に、他の大都市のレクリエーションの仲間、さらに海外の都市に発信していこうと夢を広げて考えています。ぜひ一緒に進んでいきましょう。

指導者養成講習会について

指導第一委員会 兼松ムツミ

平成7年度養成事業は昨年11月に終了致しました。前期後期とも30名ほどの方が受講され、レク資格申請予定者は8名ほど居られます。

講習内容は1年間で資格申請が出来るようにプログラムされています。お仕事の都合や情熱が持続出来なかつたりの理由で受講を断念される方が多い中で、今回の申請予定者の情熱努力を感じずにはられません。

講習に携わる指導第一委員会のメンバーも総力をあげて受講者相互の人間交流を引き出し講習会の雰囲気作りに勤めてきました。

断念された方々が次年度も受講され、横浜市レクリエーション運動振興に携われますことを希望致します。

平成8年度講習会も7年度と同じ内容で5月15日からスタート致します。広報よこはまでもご案内致しますがお近くの方で養成講習

会に興味のお有りの方にご案内下されると幸いです。

協会自主事業好評のうちに実施される!!

今年度は中止事業もなく、各事業は好評のうちに実施されております。「トリップイン白馬」と「尾瀬と桧枝岐の旅」は受付当日2時間程で定員になってしまい何十人ものキャンセル待ちの人があり、それでも電話は鳴りっ放しで、白馬・尾瀬の人気的一端が伺えました。天候にも恵まれ参加者から「すばらしかった」とのお礼の手紙も届いています。

「外国の料理を楽しむインド編」では、男性の希望者からも何人もの申込みがあり、やはり受付当日で満杯になってしまいました。

「ネイチャーゲーム」では親子での参加者も多数あり、秋の日の一日、自然の中で楽しく過していました。

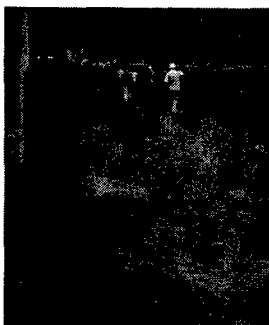
「カラオケ段級位認定」「バウンドテニス」「ジュニアスキー教室」「お正月親子スキー戸狩」も無事終了しました。2月13日に受付をした「春霞の湘南を描く」も当日で締切りとなりました。初心者に人気がありますが、中には友人はだしの人も何人も居り、キャンパス持参の参加者も多数おります。

最後のしめくりに「春休み親子スキー」を残すのみとなりました。

自主事業は充実した1年であったと思います。

①トリップイン白馬 9/29~10/1 参加者49人

榎池自然園と塩の道散策を主目的とした小旅行は、好天に恵まれ、すばらしい景色に参加者の皆さんに大変喜ばれたものになり、協会としては大成功に終わったと思います。来年もこのような企画をしてほしいという要望がありました。



(塩の道と千国街道)

②トリップイン会津 10/20~10/22 参加者43人

晩秋の尾瀬の自然の展望と桧枝岐の奥深い山波に参加者の皆さん、おおいに感激をしたいと思います。またバスの中でのレクリエーションの企画の楽しさに皆さん喜びもひとしおだったと思います。



(桧枝岐村にて参加者揃って)

③市民レクリエーションカラオケ段級位

認定会 10/29 参加者75人

吉野町市民プラザ



(三嶋、斉藤両先生、桑垣副会長と入賞者)

④ネイチャーゲーム 11/5 参加者29人

大池こども自然公園内



(親子協力して木の形を作る)

⑤外国の料理を楽しむインド編 12/2

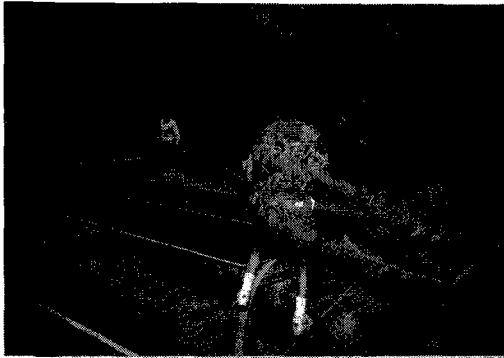
「レストラン・タージマホール」参加者30人
タージマホールの一流シェフ3名による指導を支配人の通訳で、参加者全員でチャレンジし、本場のインド料理をフルコースで堪能しました。



(シェフの説明を聞く参加者)

⑥やってみよう!!バウンドテニス 12/17

栄スポーツセンター 参加者17人



(バウンドテニスを楽しむ参加者)

⑦お正月戸狩スキー 1/3~1/7

親子 74人

ジュニア 40人

お正月をスキー場でということで参加者の皆さん大へん喜んでおりました。天気の方はスキー場特有の寒さでありましたが、スキーをする楽しさの中で寒さも何のそのでありました。



(講習会風景)

市民クリスマスの集いを終えて
横浜市フォークダンス協会

吉井 勤

横浜市レクリエーション協会主管事業の一環としまして、平成7年12月17日(日)横浜市フォークダンス協会では、保土ヶ谷スポーツセンターにて、市民フォークダンスクリスマスの集いを実施しました。

毎年各区のスポーツセンターを利用して開催していますが、今回は地理的条件もよく、交通の便利さも手伝い参加者の出足は好調でした。800余名の参加者があり、盛大裡に終ることができました。

主催者側から横浜市レクリエーション協会相川事務局長、横浜市フォークダンス協会朝倉会長の挨拶、来賓からは神奈川県フォークダンス連盟芝野先生のご祝辞を得、来賓並びに関係者の紹介のあと、恒例の表彰式と抽選会を行ないました。

ここにきて、フォークダンス人口が徐々にではありますが、増加の傾向をたどっていることを、喜ばしく思っております。

三ツ沢モーニングコールクラブ

副会長 山本 忠三

今年度事業計画の一環として、三ツ沢モーニングコールクラブでは平成8年1月15日観光バスで、伊香保、水沢観音初詣でに参りました。当日は前日とうって変わったような好天に恵まれ、赤城山の雄大な眺望と紺碧の空、周辺の山なみには一面の雪景色。大自然のバ

ノラマを目のあたりにして、都会では味わえない感動を覚えるのでした。又古刹坂東第十六番札所水沢寺では、往時の面影をそのままに偲びながら、今年度の一層の発展を祈願しました。車中では会員各自で持ち寄った物を共に分かち合い、語らい、思いやりのある一刻を過ごすさま等、コミュニケーションの場をつくる事によって、人は皆人間関係のすばらしさを味わう事が出来るのではないのでしょうか。大変楽しい有意義なバス旅行の一日でした。

「協会事務局だより」

平成7年度もあますところ僅かになりましたが、各事業も委員の方々の積極的な取り組みの中で、順調に進めてまいることが出来ました。特に恒例の「新春のつどい」は、高秀横浜市長のご臨席を賜り、参加者記録も大幅に更新し、258名のご参加を得て盛会に開催することが出来ました。有難うございました。

只今、事務局では平成8年度にむけて、スポーツレクリエーションを取りまく環境の変化や市民ニーズを踏まえながら「中長期計画推進会議」で計画を検討いただき、事業計画、予算(案)を作成しているところです。

平成8年度は、この計画に沿って活動を推進することになりますので、より一層のご協力をいただきたいと存じます。

また、正会員、賛助会員の増員をはかってまいりますので、会員の皆様のご支援、ご紹介をいただきたいと存じますので重ねてお願い申し上げます。



(市長・会長と功労者の皆さん)

鈴木司専務理事 文部大臣表彰に輝く

本協会専務理事鈴木司氏は昨年10月の全国体育指導委員大会で文部大臣表彰を受けました。永年体育振興に尽くされた功績によるものです。

編 集 後 記

会報17号の発刊に際し、貴重なご提言をはじめ、事業活動の成果がグラビア報告で掲載。内容として、楽しく伺えるようにされましたご盡力に対して心よりお礼を申し上げます。

表題を飾っていただきました“これまでのレジャー観に関して指導者への大切な心構え”を寄りどころとなります様に、レジャーの水槽の中で、自由に動き廻る金魚をレクリエーションとしてわかり易く、解説された内容には特段の敬意を表したいと思います。

市民の一人ひとりが、自己のかけがえなき豊かな生涯を、自分らしく生きる時代に、多様な、自由な嗜好にも応えられる魅力を目指す時代こそレクリエーションの果たす役割りと痛感いたします。さらに、身に覚えた余暇能力を適切に、他人の日常生活行動の魅力として活動展開を求められる自信づくりにも、忘れかけていた大切な意義づけと、声を大にした励ましのお言葉として受けとめたいと思います。

総務財政委員会の過去2ヶ年間に亘る検討を重ねられて来た「協会運営の柱づくり」第2次中長期計画こそ、新年度を迎えます協会運動と共に諸事業の展開を指標する拠り所として、豊かに生きる喜びを与えられ、多様な市民の余暇ニーズに応えた行動組織づくりが見直され、更には横浜らしい大都市生活を支え乍ら、広く大きな相互交流の機能を発信するベースづくりも、寄与出来るものと信じます。

過日のレクリエーション指導者研修会の折にも、確かな軌道を知恵と行動によって、相互に研き合い乍らの大切な、知らしむ啓蒙と、寄らしめる交流によって、力強く一步を踏み出そうではありませんか。期待に応え、絶え間なき活動支援の増進を心より念じて、広報委員各位よりのまとめといたします。

広報委員会 委員一同